

## 『ヤマハピアノはとんでもなく安い!?!』

今回は特得ニュース本文の続きネタです。横浜の楽器フェアに行って、欧米一流メーカーのピアノを見てきました。**スタインウェイ・グロトリアン・ベヒシュタイン・ザウター・プレイエル**等。説明してくれた輸入代理店も、少しでも販売につなげたいみたいで、対応はとても親切です。もし「良い物であればお金に糸目はつけない、人とは違うピアノが欲しい」と言われる方はお知らせください。当社でもこれらの商品を取り扱うことができます。ここに上げていない**ベーゼンドルファー**というオーストリアのピアノもOKです。

しかしね、そんなに売れる気はしないんだこれが。**確かにこだわりはすごいよ**。ピアノの金属フレームのゆがみを取るために、数ヶ月外に放置しておいて（シーズニングという）、ゆがみが安定してから錆びを落とすとか、20層以上のうすいぶな板を張り合わせて断面がバウムクーヘンのようにになっているX形の支柱とか、聞いてみるとほんとうにすごいな、いいなとは思いますが、値段を聞いた時点で「はぁー」っていうため息しかでない。

こうなると逆に日本のメーカー『ヤマハ』のありがたさが本当に実感できます。だって**縦型で欧米産の半額から3分の1、グランドで4分の1から5分の1の値段で新品ピアノが買える**のです。それでいてヤマハは世界的に一流のピアノメーカーなんだから。欧米のピアノに対して品質が半分以下ということは決してない。それどころか**アクションの精密さ、反応の良さ、品質の均一性では世界一**だと言うピアニストがたくさんいる。

例えばヤマハのC3という奥行186cmのグランドピアノは168万円。スタインウェイのA型・奥行188cmのグランドは882万円。ベーゼンドルファーのモデル185・奥行185cmは819万円。（2006年時点・現在はさらに値上がりしています）**ヤマハはピアノを量産しているからこの値段が実現でき**

**る**のです。ちなみに高音質モデルの新商品ヤマハS4B・奥行191cmでも409万円ととってもお買得。先日広島で新商品発表会があって、その素晴らしい音を聞いてきました。

欧米の一流ピアノメーカーは、大多数が1800年代の創業。当時は誰もがピアノを弾ける時代ではなく、貴族とか限られた裕福な階層にしかお客さんはいませんでした。従ってそんなお客さんがピアノに求めた物は、価格の安さではなく、**音や耐久性もふくめた品質、および家具として見栄えのするゴージャスなデザイン**です。必然的にこだわりのピアノを一台ずつ丁寧に生産する体制が伝統になっていきました。このため工場の近代化という流れには後れてしまったのです。

戦後この状況をうまく突いて発展したのが、スタインウェイとヤマハです。スタインウェイはアメリカに資本を移していたので、戦争で荒廃したヨーロッパメーカーが再建する間に、いち早くシェアを確保し、世界トップブランドとしての地位を築きました。ヤマハは日本国内の高度経済成長と、欧米文化への憧れからくるピアノブームにのって、**いち早くピアノの量産化に成功**しました。

最近ピアノ買い取りのテレビCMがよく流れますが、ヤマハの中古ピアノは海外ですごい人気があるそうです。特にグランドピアノはとても高く取引されているとか。海外に中古ピアノを輸出している会社の人に言わせると、**ヤマハのグランドピアノは安すぎる**とのこと。実際ヨーロッパの中でも技術力の高いドイツ国内で、もっともシェアの高いピアノメーカーはヤマハだそうです。

ということで私が感じた結論は、いくらお金があって予算に糸目はつけないという方でも、欧米メーカーのグランドピアノを中古で購入するよりも、アクションの精密さで勝る**ヤマハのグランドを購入するほうが、テクニックを身につけてコンクールに出場するには良い**のかもしれない。